

『臨床教育学研究』第9巻の発行と第10巻の編集状況

第10巻編集委員長 山内 清郎

1. 第10巻編集委員会の構成

1) 編集委員

上田 孝俊(武庫川女子大学・教育実践学) 氏家 靖浩(仙台大学・地域精神保健)
楠 凡之(北九州市立大学・生活指導論) 土永 葉子(帝京平成大学・臨床心理学)
本田 伊克(宮城教育大学・教育課程論) 山内 清郎(立命館大学・教育人間学)

2) 編集委員会事務局

〒603-857 京都市北区等持院北町 56-1 立命館大学 文学部 山内清郎研究室

Tel 075-466-3229 E-mail: seiro-ya@fc.ritsumeai.ac.jp

3) 投稿論文提出先及び製本・印刷依頼会社

株式会社正文舎(担当: 赤羽賢大)

〒003-0802 札幌市白石区菊水 2 条 1 丁目 4-27 Tel 011-811-7151

2. 第9巻の発行

- 1) 『臨床教育学研究』第9巻(2021年3月31日発行)を、ほぼ1ヶ月遅れで2021年5月に会員に送付した。
- 2) 特集は『虐待』への臨床教育学のアプローチとした。領域や立場の多様な著者による4本の論文を掲載した。心理相談員、保育実践者、精神看護学、子ども支援の大学生ボランティアを組織する立場というように、それぞれ特徴的な立場の方々の「虐待」へのアプローチは、従来の狭義の「虐待」にとらわれがちなたしたちの視野を広げてくれるものであった。印象深かったのが、異なる立場からよせられた諸論文であったが、各論文に自ずと共通していたのが、つながりの回復の重要性を強調し、そのつながりを困難にしている社会状況を多面的に適切に捉えることの必要性を提起していたという点である。
- 3) 特集を除く第9巻への投稿原稿は17本(論文7本、実践研究論文3本、事例研究論文2本、研究ノート2本、事例報告3本)で、審査の結果、論文1本、事例研究論文2本、研究ノート1本、事例報告1本の計5本が「掲載可」となった。

3. 第10巻の編集状況

- 1) 特集のテーマは、コロナ時代の教育日常の記憶と記録とする。特集タイトルの「記憶と記録」には、ふたつの意味がある。長引くコロナ禍で、すでに緊急事態が日常となりつつある現在、コロナ以前の教育・発達援助の世界にあった大事なものをわたしたちはすでに忘却しつつないだろうか。その大事なものを忘れ去ってしまう前に、記録しておく必要があるということ。そして、もうひとつの意味は、今まさに現在現場で直面している新型コロナウィルス感染症(COVID-19)の影響下で生じている諸問題を、ありのままに記録しておくことである。こうした今現在の現場の記憶を書き記した記録は、貴重な臨床教育学的な資料になると考えている。
- 2) 投稿原稿は、2021年9月15日〆切で18本の原稿を受理した(第9巻は17本)。審査は10月末に終え、再査読を求める場合は11月末日に修正稿の提出を予定している。修正稿の審査は1月初旬に通知できる予定である。
- 3) 書評・文献紹介・海外の研究動向は、従来編集委員会から依頼をしてきたが、会員からも積極的に提出いただけたらと願う。書評(近刊で会員に推薦するもの)は3,500字程度、文献紹介(臨床教育学の古典的な文献)は7,000字程度、海外研究動向は1万字程度。編集委員会事務局まで2021年12月末〆切。

4. 編集委員会の課題と要望

- 1) 第9巻の編集後記に、本学会の会員には「実践的研究者」「研究的実践者」が多いことが述べられていた。その点で、「論文」という投稿のカテゴリー以外にも、「実践研究論文」「事例研究論文」「実践報告」「事例報告」といった投稿カテゴリーが設定されていることが、機関誌『臨床教育学研究』に特徴的な点である。ただ、そのため「実践研究論文」等のカテゴリーへの投稿論文には、なかなかモデルとなるような論文・報告スタイルを見つけることが難しいようであり、研究内容としては相当のレベルにありながら、概念設定や説明・記述上の不十分さによって掲載までにいたらない例がみられる。本機関誌に独自の「実践研究論文」等の論文スタイル

ルを、積極的に提示できるようつとめることが、今後の編集委員会の課題として挙げられている。

- 2) 本学会が、研究機関に属する会員より実践者が多数をしめるという事実を踏まえ、研究方法上の倫理的配慮の確認や担保などを学会がどのように保証していけるのか、課題となる。実践者がそのことで投稿をしづらくなならないように、とりあえずは、地域での研究者との共同や連携を積極的に推進してほしい。
- 3) 投稿者からは、審査結果の如何に関わらず、丁寧な所見と研究上のアドバイスをいただいたと評価を受けている。査読者は、本務はもとより多忙ななかで、誠意をもって取り組んでいただいている。査読を依頼した節には協力をお願いしたい。